

多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために 2014 年 10 月

KSKQ ファースト・ラン NO. 91



『森のふくろうたち』
みやぎ 宮城

ゆうな 柚那

スタッフリレーコラム～こんなメンバーであんじょうやってます～

『これからも遊んでいこう』

「お母さんの仕事って遊んでるだけやな」と何度かさんかくひろばに遊びに来たことのある息子が言った。「なんやってー！？」と思ったが、遊んでいるだけに見えるということは、楽しいお仕事に見えるということかな・・・？

結婚前は、ピアノを教えることで子どもと関わり、子育て時代は、育児書とにらめっこしながら子どもと関わってきました。どちらも楽しいけれど、思い通りにいかない子どもに必死になっていた頃です。素敵な先生や友人たちと出会うことで、その子一人一人のペースでいいんだということを学びました。

今は、地域交流センターさんかくひろばの放課後等デイで子どもと関わっています。ここでも素敵な出会いがいっぱいでした。たくさんの人が集まり、毎日子どもたちと色々な事をしています。遊んでいると言われても仕方がないくらい、私も一緒に楽しんでいるのです。

今度は自信をもって私から息子に言おう。「お母さんの仕事は放課後等デイの子どもたちと遊ぶことだよ！」

あだちまさこ
(足立雅子)

素敵なアーティストたち ～ミント・アンサンブル～

「学校を卒業しても、創作活動が続ける場所があればいいのだけれど…」

支援学校の先生から、そんな相談を受けたことがきっかけでスタートしたアートサークルも、今年で5年目を迎えました。

私がアートサークルに関わるようになったのは、ちょうど2年前、ライフタイムミントの職員になったときからです。しかし、我が身を振り返ると、小学校・中学校を通して、一番苦手な科目は「図工」「美術」だった私、己の絵の下手さ加減には常々泣かされてきました。参観日にずらりと貼られた絵の中から、自分の作品を引っぺがしたいと何度思ったかしれません。「アートサークルを担当してください。」という一言を受け止めたとき、胸の内は非常に複雑な思いが渦巻いていたのです。

しかし、回を重ねるにつれ、少しずつ気持ちは変わってきました。作品に向かう皆さんの真剣なまなざし。出来上がった作品を誇らしげに掲げるキラキラ輝く笑顔。そして何よりも、ひとつひとつの作品の素晴らしさ。

「ああ、今日もあの笑顔に会える、素晴らしい作品を見ることができる！」

2年が過ぎた今、毎月1回の活動日をとてもとても楽しみにしている私がいます。



アートサークルは、毎月第4土曜日の午後に、ささゆり園で開催しています。3人の先生と、4～5人のボランティアの皆さんに、その活動をサポートしていただき、一人一人が思い思いの作品を仕上げています。

今年3月には、大阪府主催の「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」で、3人の作品が入選し、梅田スカイビルのギャラリーに展示されました。また、4月にはメイプルホール

1階ロビーで第3回作品展も開催し、みのお FM でも紹介されました。

今年度に入り、また新たに会員も増え、作品のスケールもどんどん広がっています。引き続き会員募集中ですので、興味のある方は是非一度見学にお越しください。(池間 圭子)

※お問い合わせは 072-720-6806 ライフタイムミント(担当:池間)まで

重度訪問介護従業者養成研修講座

毎年恒例の重度訪問介護従業者養成研修講座（以下：重訪講座）が 8 月 2 日（土）に開講しました。初日は残念なことに雨でしたが幸い室内での講義だったので特に問題なく行うことができました。私は重訪講座にスタッフとして 2 回目の参加でしたが、毎年この初日が



一番緊張する日です。予定通り開講式を終え介護概論と進み、いよいよ介護技術入門、新人スタッフで慣れていない私も受講生と同じく緊張した面持ちで挑むことに。しかし受講生の自己紹介を聞いているうちに緊張も少しほぐれ何とかなりました。その後はベテランスタッフがプログラムを進めていき、山あり谷ありモハメッド・アリ（？）で長い初日の講義

を終えることができました。その後の日程の 3 日、9 日の講義と無事に終えましたが、10 日に予定していた基礎介護実習は台風の為 16 日に延期。それに伴い外出介護実習も 31 日に変更となりました。16 日は車イスでの外出でしたが、あいにくの土砂降りの中カップ着用で車イスを押しての実習となりました。実際はこんな雨の中でも外出介助を行うこともあり、これもいい経験になるのかと思っていたところ、受講生からもそういう声を聞けて良かったです。31日の最終日は、梅田への外出介護実習。当日は夕方から 30% の雨の予報の中ささゆり園を出発、怒涛の一日が始まりました。梅田の人混みの中をかき分けながら車イスを押すという、受講生にとって貴重な体験だったと思います。飲食店での食事介助、トイレ介助、買い物とあわただしく過ぎ、紆余曲折ありましたが、雨に降られることもなく、ささゆり園に戻ってきていました。受講生が最後のレポートを提出し、ゲストティーチャー（障害福祉サービス利用者）、受講生、スタッフの感想を終え、修了式。修了証書を手にした感動冷めやらぬままの賑やかな交流会となりました。その後の登録説明会で今後登録が期待できそうな方もおられたそうです。毎回重訪講座は大変ですが終わった時の達成感があり、スタッフにとっても良い講座だと感じています。一人でも多くの方がこの世界のことを知ってもらえるよう願ってやみません。

きのした やすあき
(木下 泰彰)



ヘルパー募集!

人とつながる・支え合う・自分だけのやりがいを見つけてみませんか?

当法人では、箕面市在住の障害のある方の生活をサポートして下さるヘルパーさんを募集しています。週1日からでも自分のライフスタイルに合わせた勤務が可能です。



森山千代さん

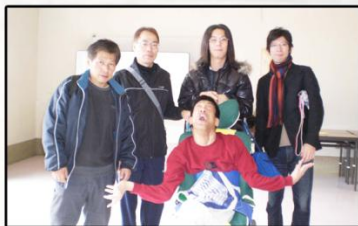
『ヘルパーのやりがい』

車椅子生活をしている方が親元を離れて地域で一人暮らしをしたいという夢を応援したく、ヘルパーのお仕事を始めました。その姿を見て、自立に向けて一步前に踏み出し新たに一人暮らしを始めた方もいます。ヘルパーって夢のお手伝いが出来る仕事なのだと思いますと嬉しくなりました。自分の体調管理もしっかりやりつつ、障害のある方の生活が心地良く流れるようにこれからもサポートしていきたいと思います。



木下泰彰さん

ヘルパーになってかれこれ3年になります。まったく未経験で始めは不安でしたが、優しい先輩達に丁寧に教えて頂き何とか3年続いています。今は泊まり勤務にも慣れ、個性豊かな利用者さんとも楽しくやっています。少し余裕もできたので先月スマホも買えちゃいました。ヘルパーの仕事に興味がある方も、特になくても仕事をお探しの方も、辛いときもありますが、是非楽しい仲間と一緒に働いてみませんか? 思わぬ発見があるかも!



【仕事内容】

皆さんと同じようにお茶をしたり、出かけたり、お風呂に入ったり、ご飯をつくり、食べたり、そんな何気ない日常生活を送るためのサポートです。
1対1で活動するこの仕事は決して楽なことばかりではありませんが、魅力もたくさん。
いろんな人と知り合える出会いの多さや、問題に直面してもひとりで悩むのではなく、みんなで悩み、考えて解決していくプロセスはこの仕事を持つ「面白さ」です。

【勤務地】

箕面市内の障害のある方のご自宅
事務所に立ち寄らず直接訪問、終了後は直接帰宅となります。
困ったことなどがあれば、いつでもスタッフに連絡相談できます。

【勤務時間】

週1日～OK！早朝7時～9時、夕方16時～22時、18時～翌朝の宿泊を伴うサポート等々。
1か月単位でスケジュールを組んでいきます。他のお仕事との掛け持ちOKです。
登録してすぐにたくさんの仕事をして頂けるわけではありません。
時間をかけて利用者との関係を作り、徐々に入れる仕事を増やしていきます。

【給与】

時間給 1,300円～ ＊サポート内容、勤務時間などにより異なります。
諸手当・・・通勤手当、移動手当、休業手当、研修手当、盆・年末年始手当など
労働災害保険加入、賠償保険も完備しています。

【資格】

ヘルパー2級以上
(各種ガイド資格保持者・同行援護・重度訪問介護など)
＊資格取得支援制度あります。
無資格でも興味のある方は是非ご相談下さい。

【連絡先】

〒562-0001
大阪府箕面市箕面4丁目8番30号
特定非営利活動法人
箕面市障害者の生活と労働推進協議会
TEL 072-723-3342
FAX 072-723-6506
担当：安東、丸橋

カエルのうた

其の 6 ～高所恐怖症



ある時、自分は高い所がとても怖いということに気がついた。建物の壁にペンキ塗りをした時のことだ。障害者事業所の建設費用を安くあげようと、素人の自分たちでペンキ塗りをするようになった。建物の高さは 5 メートルぐらい。下から見上げると全然大したことはなかった。ところが立てかけたハシゴを 4 ～ 5 段上った所で下を見ると急に足が震え始めた。そしてもう少し上がると恐怖で体が動かなくなった。そんな経験は生まれて初めてだ。思えば小学校の頃、掃除の時間に校舎の 3 階の窓の所にまたがり、拭き掃除をしていて下から教師に「危ないから降りろ！」と怒鳴られたことがあった。その頃は高い所が怖いなどとはまったく思わなかった。恐怖を感じたその時から、いろんな場面で恐怖を感じてしまう。たとえばテレビでスカイツリーからの景色を放送しているのを観ただけで、自分が高い所にいるような気になって怖くなる。名前は忘れたが高い所にある歩道橋で、床の所々がガラスになっていて下が見えるようになっている。景色を眺めたい人にとっては素晴らしい工夫なんだろうが、私はとても下を見る気にはならない。こんなものを作った人間の気が知れないとさえ思う。

ちなみにジェットコースターなどは論外だ。スリルなんてものじゃない。ゆっくり坂を上って行く時など、その先が真っ逆さまだと想像するだけで恐ろしい。思わず「降ろしてくれ」と叫びたくなる。以前、バーをつかまなくて、帽子が飛ばないように両手で押さえながら乗っている人を見たことがあるが、何を考えているんだろう。見ていだけで恐ろしい。最近は後ろ向きに落ちていくようなものもあるようだが、そんなものに乗ったら気絶してしまう。

同じ高い所でも飛行機は意外と大丈夫なのが不思議だ。窓から景色を眺めても怖くない。安定感があるせいなのか、高すぎてピンとこないのか。理由はいろいろ考えるが、何ともはっきりしない。まっ、しかし飛行機が大丈夫なのは助かった。と言うのも今まで一度も海外旅行に行ったことがないので、いつかは海外旅行に行きたいと思っている。高所恐怖症の話から急に海外旅行の話とは、脈絡の無さに書いていて自分でも驚くが、近年とても海外旅行に行きたいと思っている。車いす生活になる前はどこにでも行けるという気があるから、かえって海外旅行なんて特に行きたいとは思わなかった。しかし、車いす生活になってからは移動が不便になり、時間もかかるようになった。そうすると今までと違い、無いものねだりとも言うのか、今まで行きたいと思わなかった所に行きたくなってきた。

まずはと思い、この間生まれて初めてパスポートを取得した。これで海外旅行を目指してのスタートラインには立つことができた。後は具体の計画を立てるのみ。気分は「わくわくドキドキ」だ。いつか「カエルのうた・海外旅行編」を書ければなと思っている。(武藤 芳和)

パンのみみ



その 26 ～ 差別解消法を生かすお作法 ～

再来年の春『障害者差別解消法』がスタートする。みんなが待ち望んだ救済の法律だ。なぜ特定の人に特化した差別解消法なのか、それはそのグループに属する人たちがそれだけしいたげられ、ないがしろにされてきたことを雄弁に表している。いつでも人権を守る宣言や法が生まれるときには、その裏にむごたらしい現状がある。そこにそっと灯りをつけることができるかもしれない。

法律ができたからといって、わたしたちの生活がガラッと良くなるはずはないけれど、排除されることが少なくなればいいな、選択肢が増えるかな、という淡い期待を抱けることは、なんと豊かなことだろう。わくわく感と、イイ緊張感に包まれる。と同時に、いざというとき「障害のある人の差別を禁止しているんですよ！」と戦える武器を手にしたことでもある。この武器としての側面を使い誤っては恐ろしいことになる、そんな気がしてならないのだ。

電動車いすで電車に乗るとき、駅員さんが‘渡し板’という名のスロープを設置する光景は誰もが一度は目にしているだろう。目的地でも同じ車両にちゃんと迎えてくれている。この頃は頻繁に車いすが行き来するため、日常風景に溶け込み、きちっと素早く対応してくれることが多い。先日、たまたま気のよさそうな若い駅員さんと談笑していると「もうこの駅も 2 年目なんですけど、あいかわらずお客さんに怒られっぱなしで…」という会話になった。前日、車いすの知人が電車を一本見送られたことで駅員さんに激怒している場面に遭遇していたので、「車いすの人もせっかちな人いますもんね」と返したら、「違います。車いすでないお客さんに怒られるんですよ～待たせてしまうからね」と苦笑いしている横顔に、胸がチクツと痛かった。経営維持のため人員節約は必然で、ほとんどの時間帯を駅員さん一人で切り盛りしている。そこに車いすの乗客が来ると、一旦窓口を閉めスロープを持って走る。その不在の間、無理解な他の乗客に声を荒げられるのだ。

“電車に乗るのは権利だ”という考えに汚染されすぎていて、その権利を前線でこっそり支えてくれている人たちの後姿をわたしはスッカリ見失っていた。そう思うと無性に悲しくなった。障害のある人の権利をちゃんと守ろうとすると、その背後にはたくさんの人の思いと力が必要だ。見えないところで動いてくれている人もいる。根気のいる地道な作業によってわたしたちの人権は支えられている。その温もりを感じとること、そして全体を俯瞰してみる目を持つことはとても大事なことだ。

長い長い間、自尊心を傷つけられる経験をすると、内に秘めた攻撃性や復讐心が膨れあがる一面がある。傷つけられたと反応すると、憤りや悔しさを目の前の人にぶつけてしまう。解消法はそれに拍車をかけるかもしれない。でもそれは仲間内で攻撃しあって、互いに疲弊することにしかない。対立するのは身近な人だけど、本当に向き合うべき相手は、もっと遠く接点を持たないところにいる。自分の激情を自覚して上手に扱いながらコミュニケーションしていくこと。それが解消法の活かし方だと思う。難しいけど面白い挑戦になると感じている。(今井 雅子)

◎ 当法人のご案内 ◎

当法人では電話・FAX・Email・blog・来所・訪問等様々な方法で相談・支援を受け付けています。



【編集後記】

- ・異常気象と言われた今年の夏をすくすくと育った田んぼの苗。そんな風景を見て何故か「ほっ」と安堵する 9 月でした。次号は主に対市交渉の報告号になります。(職員 K)
- ・秋になり運動会シーズン。この時期になると、早朝からブルーシート片手に小学校へ場所取りに行った事を懐かしく感じます。歳のせいでしょうか・・・(ー) (職員 KK)
- ・年に一回実施される箕面市と障害者関連団体との協議である「対市交渉」が今年も 10 月と 11 月にやってきます。行政と直接交渉できる貴重な機会になります。(職員 B)

編集／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面 4 丁目 8 番 30 号 電話 072-723-3342 FAX 072-723-6506

E-mail: JDW07270@nifty.com 郵便振替 00990-4-116066

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山 2-2 東興ビル 4 階

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行 定価百円